

教育の質的転換 と 小論文試験

平成28年10月22日
学長 小澤 熹

I. 今日の学び：教育の質的転換

1 大学入試の大変更計画

大学入試センター試験の廃止 →

「大学入学希望者：学力評価テスト(仮)」の導入。

背景：

現行の大学入試が知識の暗記・再生に偏りがち、
思考力・判断力・表現力や、主体性を持って多様な
人々と協働する態度など、真の「学力」を十分に

育成・評価していないという危機感が根底にある。

真の「学力」を評価するシステムへの変革

現在の画一的なペーパーテストから、アドミッションポリシーに基づく多様な評価方法（面接、集団討論、小論文、高校での学習・活動成果など）を組み合わせた学力の多面的・総合的評価による選抜方法への転換を計画。

2 「大学入学希望者学力評価テスト(仮)」では、 「思考力・判断力・表現力」を中心に評価

*「思考力・判断力・表現力」とは、「知識・技能を活用して、自ら課題を発見し、その解決に向けて探求し成果等を表現するために必要な能力」をいう。

特に、「自ら課題を発見し、答えが一つに定まらない問題に、解を見出していくために必要な諸能力」の

重視。→ 諸能力を評価する作問 → 各教科・科目について検討中。

また、他の教科・科目や社会との関わりを意識した内容など、**教科を越えて**知識・技能を活用することが求められる出題も想定。

出題形式も、「**思考力・判断力・表現力**」をより適切に評価するために、

センター試験＝複数の選択肢の中から1つの正解を選ぶ形の問題だけでなく、

記述式の問題や、多数の正解があり得る問題など、多様なパターンの出題が導入される。

Ⅱ. 日本人の高度な教育研究力等の 維持、改善 → 真の学力の育成



受け身の授業 から 「能動的学習」

「アクティブ・ラーニング」 への転換

「自ら課題を発見し、答えが一つに定まらない

問題の解を見出すための諸能力」 の育成。

択一式試験問題中心から、記述式問題や多数の正
解があり得る試験問題等の組み合わせへ

時代が求める学力

- 高校以下の学校にも、新学習指導要領が求める学力でもある。

次期学習指導要領：改訂年度

幼稚園が2018(平成30)年度

小学校が2020(平成32)年度

中学校が2021(平成33)年度

高校が2022(平成34)年度以降に全面实施

児童生徒が**討論や体験学習**などを通し自ら課題を見つける「**アクティブ・ラーニング**」の手法等を採用。

本学を含め、大学教育は変わりつつある。
学生の主体的な学修を促す教育を進める
こと→自己学習への転換。演習、実習等
の増加が求められている。

主体的学修の体験 → 生涯学び続ける力を
修得できる

アクティブ・ラーニングをしている状態の例

- ・ クラスの中で、学生たちが討論している (class - discussion)
- ・ 学んだことを1組ないしはそれ以上の学生同士で共有 (シェア) している (think-pair-share)

- 学習する主体を個人ではなく 2 人なしはそれ以上の極小ユニットにする (learnig cell)
 - アウトカム・レポートや「1 分間ペーパー」などと呼ばれるような短いレポートを筆記させる (short-written-exercise)
 - 3 人から 6 人程度の互いに協働するグループをつくる (collaborative learning group)
 - 学生の間で形式的な論争=ディベートをやる (student debate)
 - ビデオ映像を観た後で感想を披瀝させる (reaction to a video)
 - 遊戯性を伴ったゲームをおこなう (class game)
- 講義だけでなく、このような方式学習の採用

Ⅲ 小論文の過去問題と書き方

1 過去問

H24年度 「**大震災**を生かし、未来を生きるために取り組む、私の生活目標とプラン」
与えられた題目について、1000字程度で考えを述べなさい。

H25年度 「**IPS細胞(人工多能性幹細胞)の研究成果**とその応用等に、私たちは何を期待しているのでしょうか。」あなたが述べようとする中心的事柄を、自分の「小論文テーマ」として書き示したうえで、いろいろな例をあげて記述して下さい。また、倫理的課題があると思う人は、どのようなことかも述べて下さい。

H26年度 OECDの**PIAAC(国際成人力調査)**で、日本は読解力、数的思考力で参加国中1位の成績を得ました。しかし、IT活用分野では、コンピューター(以下PCと表記)で調査を受けた人達だけの成績は、やはり1位だったのですが、PCの未経験者やPCを使用しないで紙面回答をした人などを含めると、全体では順位が下がって、OECD諸国の平均点並みの成績で10位という結果が報告されています。このような成績結果について、自分が感じたこと、考えたことを、日本の教育の実情や自分を含めた日本人の生活や学習のあり方などを交えながら記述しなさい。あなたが述べようとする内容に相応しいと思う自分なりの「小論文テーマ」を、必ず最初に書き示してください。

H27
年度

今、日本の学校教育において、アクティブ・ラーニング(能動的学習)への転換が求められている。特に大学教育の質的転換と関連して、各大学で採用されつつある。

アクティブ・ラーニング(能動的学習)とは、どのような学習方法を指すのか、また、あなたが大学生になった時、この学習の仕方を日頃の授業・学習活動の中で、どのように取り組むつもりであるのか、考えを具体的に述べなさい。また、自分の小論文に自分なりの題名を付けること。

H28
年度

平成27年6月に「公職選挙法」が改正されて、新たに選挙権年齢が「18歳以上」に引き下げられました。これにより、高校生の一部を含む大学1年生は主権者として、選挙権を行使することになりました。社会では、いろいろな問題が議論されています。この**新選挙権制度の持つ意味や課題**、課題解決等について、あなた自身の考えを述べて下さい。また、自分の小論文には、述べようとする中心的内容を表す、自分なりの「**題名(テーマ)**」を必ず最初に書き示して下さい。

2 昨年度の「**新選挙権制度の持つ意味や課題**」についての 良い小論文の書き方 **具体的注意点の例**

- ① 18歳選挙権とは何かの説明(この場合、出題文にあるので書かなくて良い)

② なぜ変わったかを説明しよう。→

- ・「世界の国の9割が、選挙権年齢を18歳下にしている」
- ・「若者の政治参加の促進」(今までは若者の投票率が低かった)

③ 18歳選挙権に対する賛成意見 →

- ・今まで投票権が無かった18歳、19歳の若者が1票を投じることで政治に参加できる！
- ・若者がいいと思う人が当選しやすくなるから、立候補者も若者に向けた政策をアピールする！

④ 18歳選挙権に対する反対意見 →

- ・どうせみんな投票なんて行かないのでは・・・？
- ・まだ、まともに政治のことも考えたこと無いのに投票させてもいいの・・・？

⑤ 自分の意見 →

以上のことを踏まえて、あなたはどう思いますか？ 賛成？ 反対？

○賛成派の意見と反対派の意見のどちらに同意しますか？

◎それはなぜですか？ どちらの意見が説得力があったかを明確に書こう。

☆ **ポイント** 結論だけでなく、どうしてそのような結論をあなたが導き出したのかを「他の人が読んでもわかるように、気をつけて書くことが大事」！

3 小論文の書き方 一つの参考

- ・何と何が、問われているのか？ メモしてみる。
- ・強調して書きたいこと、主として書きたい(書いた)ことを、小論文の自分なりの題名(テーマ)として示す。
- ・書くことの内容の組み立てを考える。
内容の中心となるキーワード的言葉3つくらいメモしてみる。
論文の筋道として、キーワード的言葉を使う順序等を考え並べてみる。
- ・問われていることと、自分なりの題名を意識して書く。
- ・結論とその理由を2～3行書いて着地を決める。
- ・最後の点検 問われていることやテーマと内容が一致しているか？ 誤字、脱字がないか？ 再点検する。